

住民から見た廃棄物最終処分場の立地阻害要因に関する研究

岡山大学 学生会員 ○津国 雄介
岡山大学 正会員 田中 勝

1. はじめに

近年、最終処分場に対する住民の反対が強まっていること、従来埋立てに使用してきた沿岸部等に新設の余地が少なくなってきたことなどを背景にして、最終処分場の新設が一層困難となっている。厚生省が2000年6月に発表したところによると、市町村の設置する一般廃棄物最終処分場の1997年時点での残余容量は1億6431万立方メートル、残余年数は11.2年、産業廃棄物処分場については、1998年10月時点での残余容量は2億1004万立方メートル、残余年数は3.1年である。中間処理技術の向上は、残余容量の減少を若干補ってはいるものの、一般廃棄物処分場、産業廃棄物処分場とも「数年のうちに最終処分地がなくなってしまう」といわれる状況に変化はなく、処分場の逼迫は大きな問題になっている。

そこで本研究では、今後、最終処分場の新設が推進されるように住民に対してアンケート調査を行うことで、住民から見た立地阻害要因を把握することで、意味のある環境影響評価を行えるかを検討し、また、ここ3年間の全国都市清掃研究発表会と廃棄物学会研究発表会で最終処分場について研究発表されたものを分類調査することで現在どのような研究が中心となっているかの把握も行った。

2. 処分場関連研究の現況調査

処分場関連研究の現況を把握するために、ここ3年間において全国都市清掃研究発表会と廃棄物学会研究発表会で報告された研究に関して、次のような6つの分類を行い整理し調査を行った。

- (1) 遮水機能向上
- (2) 浸出水処理の高度化
- (3) 施設の計画・設計・管理および安定化
- (4) 漏水検知およびモニタリング
- (5) 有害物質および化学物質の挙動
- (6) 住民合意

分類した結果の総計を図1に示す。

図1より、(2)浸出水処理の高度化(3)施設の計画・設計・管理および安定化、(5)有害物質および化学物質の挙動に関する研究がほぼ同数発表されており現在の最終処分場関連研究の3本柱となっていると思われる。逆に(6)住民合意の研究がまだまだ少ない状態であり、このことは先に述べた最終処分場の論点の1つとしてあげられているリスク・コミュニケーションに関する研究がまだまだ少ないといえる。よってこれらの研究に関しても今後研究を進めていく必要があると考える。

3. アンケート調査

3-1 アンケート概要

(1) アンケート方法

調査対象者は、吉永町、牛窓町、久世町の3地域とし、それぞれ電話帳により無作為にそれぞれ300世帯抽出しアンケートの送付先とした。

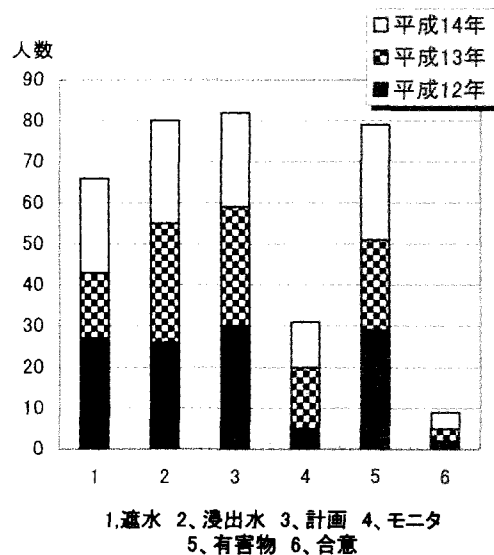


図1 過去3年間の研究発表件数

(2) アンケート内容

最終処分場立地選定の際に住民の方々が環境面において不安に思い環境影響評価が必要であると思うであろう評価項目を11項目あげ、以下の3つの設問に答えていただいた。

評価項目：(1)資源消費 (2)地球温暖化 (3)大気汚染 (4)悪臭 (5)水質汚染 (6)騒音 (7)振動
(8)害虫発生(9)地形・地質 (10)植物・動物・生態系 (11)景観・人と自然とのふれあい

問1 (1)～(11)までの各評価項目についてどのくらい重要だと思いますか？ (1、非常に重要 2、少し重要 3、重要 4、あまり重要でない 5、全く重要でない 6、わからない)として該当する番号に印をつけて下さい。

問2 (1)～(11)までの各評価項目の順位付けをしていただきます。重要とお考えの順に各評価項目番号でご記入下さい。

問3 (1)～(11)までの各評価項目以外に重要だと思われる評価項目がございましたらご記入下さい。また、最終処分場に対して不安な点がございましたら環境面に限らずにご自由にご記入下さい。

3-2 アンケート集計結果

(1) 集計結果

本アンケート調査は3地域に各300世帯ずつ投函したが、転居等により配達できなかったのが30世帯あった。したがって、本研究の調査対象者は870世帯とした。

今回の有効回答世帯数は259世帯(29,8%)であった。

(2) 問1、問2 集計結果

(1)～(11)までの各評価項目の重要度の比較がしやすいように問1、問2の結果に下表に示す点数をつけ、それぞれの点数をあわせ、それを各評価項目の点数とした。

問1	かなり重要	少し重要	重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
点数	80点	60点	40点	20点	0点

+

問2	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位
点数	20点	18点	16点	14点	12点	10点	8点	6点	4点	2点	0点

各評価項目の平均点数を図2に示す。

図2より(5)水質汚染については、ほとんどの住民がかなり重要と考えていることがわかり、この評価項目は必ず評価する必要があると思われる、その他の評価項目については(2)地球温暖化、(3)大気汚染、(4)悪臭、(8)害虫発生、(10)植物・動物・生態系が70点以上となっており、これらの項目も重要項目であると評価されている。それ以外の評価項目も重要であるには違いないが、立地選定の段階での評価項目としては省略することも考えられる。

4、まとめ

- ・住民の考える第1の最終処分場の立地阻害要因は水質汚染に対する不安である。
- ・今回のように住民に対するアンケート調査等を立地選定という早い段階から行い、住民が必要と考える評価項目を決めていくことで意味のある環境影響評価を行うことができると思われる。

